2024年度　とうきょうすくわくプログラム 実施報告書

1.　活動のテーマ

＜テーマ＞

- 「遊び込みを通じて、子どもの主体性と探究心を育む」

＜テーマの設定理由＞

- 当園では、子どもたちが自ら選び、話し合い、作り上げるプロジェクト保育を実践しています。幼児期は、日々の保育の中で子どもたちが自ら選んだ遊びにじっくり取り組むことで友達や保育者との対話を通じて遊びを広げていき、探究の学びにつなげる活動を展開することが大切です。そこで、子ども一人ひとりの興味や発想を大切にしながら、自由な表現・探究の時間を保障し、保育者が探究をナビゲートすることを目的に、このテーマを設定しました。

2.　活動スケジュール

- 当園では日常的に「遊びの充実」を大切にしており、素材や環境の工夫によって、子どもが自ら選び、考え、表現できる保育を目指しています。特に2〜5歳児クラスでは、廃材遊びやごっこ遊びなどを通して、子ども同士のやりとりや発想の広がりが見られました。年齢や発達段階に応じて、遊び込みが深まる環境を整え、継続性のある活動を展開しました。

時間帯	活動内容
9:00〜10:30	探究遊び（素材遊び、製作、ごっこ遊びなど）
10:30〜11:00	サークルタイム（振返り）・発表の場
11:30〜	給食・午後の活動へ
15:00〜16:30	教員同士の振返りとディスカッション 良かった点、改善ポイントの特定

3.　探究活動の実践

＜活動の内容＞

- 各学年の現状に合わせ、保育士が素材や空間、時間を工夫して展開しました。各クラスの子どもたちが個人やグループごとに自身が選んだテーマで遊び込み、発展させました。

＜活動のために準備した素材や道具、環境の設定＞

- 廃材（カップや空き箱等)、キラキラ素材、折り紙、クレヨン、図鑑、テーマ性のある絵本など
- 製作スペース、フリースペースの確保
- ごっこ遊びの発展に応じて「お店屋さんコーナー」「忍者の修行場」などの設置

＜活動中の子どもの姿・声、子ども同士や教諭との関わり＞

- 3 歳児：
  折り紙を夢中で切り続ける姿、素材に対して「これ、魚のヒレみたい！」と自由な発想が広がる様子
- 4 歳児：
  「これ PayPay で払うね～」「ラプンツェルの髪飾りつくる！」など現実の要素を取り入れた遊び
- 5 歳児：
  友だちと船を共同制作し、「この船、深海に行けるやつなんだよ」と図鑑を見ながらストーリー展開
- 教員との関わり：
  子どものつぶやきを拾い「それってどういうこと？」「もっと教えて」など、探究心を広げる応答

4.　振り返り

＜振り返りによって得た先生の気づき＞

- 一人ひとりの子どもが持つ「やってみたい！」の思いに寄り添い、柔軟に環境や素材を用意することの重要性を再認識しました
- 子どもは、与えられた遊びではなく、自ら意味を見出した遊びにこそ深く没頭します。そこにこそ「学びの芽」があると実感しました
- 探究活動は「準備された環境」だけでなく、それをどうつないでいくかという保育者の関わり方（発言、問いかけ、見守り）が大きな影響を与えることがわかりました
- 今後は、遊びの継続性を意識した素材の配置や情報の提供（図鑑・経験・対話）を工夫し、「遊びが学びに変わる」瞬間をもっと支えていきたいと感じました